

◇編集後記◇

暑中お見舞い申し上げます。

年々、夏が暑くて長くなっています。企業の夏休み制度も定着してきているようで、厚生労働省の全国の主要企業 1,330 社を対象にした調査によると、最長は 22 日で平均は 8.2 日と去年よりも 0.4 日長くなったとのことです。平均程度だと、「休んだ」と感じられる長さですが、最長の 22 日になると、「バカンス」といえる長さではないでしょうか。皆様は夏休みを十分取れるでしょうか？

ところで、内視鏡消毒剤として使用が広まってきているオルトフタルアルデヒド (OPA) に関する論文が、この一年間に産衛誌に 2 報、JOH に 1 報の計 3 報報告されています。これらに対して、米国のインダストリアルハイジニストから、質問のメールが届きました。すなわち、米国国立安全衛生研究所 (NIOSH) が OPA の許容濃度の作成を検討しており、日本における OPA 使用と健康影響の概要を知りたいことと、グルタルアルデヒド (GA) の産衛許容濃度 0.03 ppm の根拠を教えてくださいというものでした。JOH は勿論のこと、産衛誌掲載の

和文 2 報にも、英文抄録があり、図表が英文ですので、簡単な説明で内容は理解していただきました。他方、産衛の許容濃度は JOH に数値は一覧表として掲載されていますが、提案理由書は産衛誌の和文のみです。それで、GA 提案理由書の最後の「提案」の主要部分を英訳して送りました。この作業をしていて、産衛の許容濃度 OEL も、提案理由書の英文 summary が JOH に掲載されるようになれば、ACGIH の TLV や DFG の MAK とともに広く使われるようになるのではと思いました。奇しくも本号の JOH には、池田正之先生による DFG の MAK および BAT 提案理由書に関する書評が掲載されています。アジアからの発信としても貴重ではないでしょうか？

海外では、夏休みは「バカンス」として定着しているようです。一方、日本では夏休みは論文作成の好機とも聞いております。バカンスになさるのか、論文作成に精を出すのか、皆様はいずれでしょうか？

(圓藤陽子)

「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：竹下達也 (和歌山医大)

副委員長：圓藤陽子 (東京労災病院), 武林 亨 (慶應大), 堤 明純 (産業医大),

本橋 豊 (秋田大), 森 満 (札幌医大)

荒木田美香子 (大阪大), 有澤孝吉 (徳島大), 市場正良 (佐賀大), 掛本知里 (東京女子医大), 上島通浩 (名古屋大), 車谷典男 (奈良医大), 甲田茂樹 (独法労働安全衛生総研), 河野公一 (大阪医大), 西條清史 (金沢大), 榊原久孝 (名古屋大), 澤田晋一 (独法労働安全衛生総研), 塩飽邦憲 (島根大), 笠島 茂 (国立保健医療科学院), 埜田和史 (滋賀医大), 谷川 武 (筑波大), 錦戸典子 (東海大), 橋本英樹 (東京大), 濱田篤郎 (海外勤務健康管理センター), 保利 一 (産業医大), 森河裕子 (金沢医大), 森田 学 (北海道大), 森本泰夫 (産業医大), 八幡勝也 (産業医大), 若林一郎 (兵庫医大)

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1 丁目 29 番地 8 公衆衛生ビル 4 階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番